

微雨の候 宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと、拝察申し上げます。また日頃より皆様には当支部運営に際し特段のご高配を賜り、改めて感謝を申し上げねばなりません。

先月は梅雨のないはずの北海道に3日間行って来ましたが、残念乍ら初日と二日は大雨で、予定していた2Rのゴルフプレーは雨の中1Rで切り上げ、小樽で酒飲んで帰って来ました。(笑)

3日目は今年4月鵬翔高校を卒業後、自衛官曹候補生として入隊した甥っ子を激励に札幌郊外の真駒内駐屯地を訪ねたところ、僅か二ヶ月で一回りも大きくなった迷彩服姿ときびきびとした新入隊員らしい態度に感動し、我が甥ながら思わず目頭が熱くなった次第です。

帰路営門に向かう途中、黄色い声の「連続歩調」が聞こえ振り返ると、89式小銃を胸の位置でしっかりと保持し、背囊や防護マスクなどを携行した完全乙武装の女性自衛官の駆け足訓練を初めて目撃して、些か驚きました。

もちろん「WAC」は珍しくもなく、先程会ってきた甥(18才)と多分同じ歳頃のはずですが、女性ですから当然体は一回り以上も小さいのに、全く同じ装備でハイポートする姿にです。また区隊旗はピンクで、何故か3人これまたピンク色の買い物かごを携行しているのも不思議でしたが？

昼休み前の最後の訓練らしく皆へとへの様子でしたが、区隊長や班長から叱咤激励され女性新隊員が足並みを揃えて走る姿には胸を打つものがあり、先頭の区隊旗を持つ隊員に「区隊旗が傾いているぞ」と、後方隊員より大きな檄が飛ぶシーンも誠に新鮮に感じたところです。

私が在職した昭和48年当時は旧ソ連を仮想敵とした北方重視の防衛布陣でしたが、昨今は対中国の西方重視のシフトに変わり、「特に北海道は新隊員募集に苦戦しています」と最先任上級曹長がこぼしていたので、皆様のお知り合いで適齢期の男女がいたら是非ご紹介下さい。

また15日は新田原基地ゴルフコンペが座論梅GCで開催され、福田司令が豪雨の中1組目でスタートされたとのことで、最終組の我々も意を決して雨合羽を着ていたところ、ティーグラウンドに立つ頃は雨も上がり、福田司令の日頃のご精進に心より感謝を申し上げた次第です。(笑)

続く16日は自衛隊家族会宮崎支部総会、また22日は全日本空挺同志会宮崎支部総会、そして23日は宮崎県隊友会総会と先月は総会づくめでしたが、いずれも都合がつかず出席適いませんでしたので、この場をお借りして関係各位にはお詫び申し上げます。

今月も小川先生のメルマガから抜粋記事を掲載しますので何卒ご一読下さい。

・「司(つかさ)司(つかさ)に任せる」と…

いま、沖縄の米海兵隊普天間基地の移設問題について、1996年4月16日の返還合意から最近

までの私の関わりについて単行本を纏めているところです。原稿用紙400枚程の分量ですし、基本的にクロニクル(年表)として起きた事を厳密に記述したのですが、それからが大変でした。

資料として記録を残すのではなく、それをノンフィクションの作品に仕上げなければなりません。

登場人物の発言についても、いつ、どこでのものなのか、24年分の手帳を丹念に調べていきました。いまは、そうした作業の大部分を終え、日本語としての読みやすさ、面白さの角度から手を入れているところです。発見も色々ありました。

どんな発見があったかは、単行本が秋頃までに出版されたときのお楽しみとして、今回は教訓のひとつを皆さんと共有したいと思います。

私は普天間基地の移設先として、一貫して米海兵隊のキャンプ・ハンセンを挙げてきました。沖縄県金武町にある基地で、キャンプ・ハンセン陸上案です。

キャンプ・ハンセンは普天間基地が10個あまり入る広さがあり、いちばん南側の海兵隊の隊舎が建っているエリアの地下には、米海軍が沖縄戦の最初の頃に10日間で作った長さ1600メートルの滑走路が埋まっています。米軍はチム飛行場と呼んでいました。

私は、海兵隊の隊舎を移築するのは難しくありませんから、それを適切な場所に移し、旧チム飛行場があった場所に普天間の代替施設を建設するのが最も望ましいと提案してきました。

しかし、普天間飛行場の危険性を速やかに除去しないことには、返還合意の目的を達成したことになりません。

そこで私は、本格的な移設先を決める作業と同時に、キャンプ・ハンセンの東隣のキャンプ・シュワブの一角に、戦場でやるのと同じように2日間ほどで仮の移駐先を造成するよう提案してきました。そこに普天間の回転翼機の部隊を収容すれば、その段階で普天間基地を閉鎖できます。仮の移駐先は当初、戦場同様に更地ですが、これで普天間の危険性を除去することができます。キャンプ・シュワブもまた、普天間の4倍以上の広さがあるのです。

このように、私はハンセンとシュワブの二つの海兵隊基地を有効に使い乍ら、危険性の除去と本格的な移設先の建設を進めるべきだと主張してきたのです。しかし、防衛省から「二つの海兵隊基地の間の調整がつかないので無理」という声が出て、この提案はお蔵入りとなったのです。

反対運動などの前に足踏みが続く現在の辺野古の埋め立て案は、そうしたプロセスの中で出てきた面もあるのですが、私は「基地の間の調整」という言葉を聞いて、首をかしげざるを得ませんでした。

防衛省に聞くと、ハンセンとシュワブの基地司令官や駐屯している部隊の指揮官が、お互いに

縄張りを侵されることに抵抗しているというのです。

日本であろうと米国であろうと、組織の間にはそんなこともあるでしょう。しかし、ことは**国家レベルの問題**です。基地司令官や部隊指揮官といった、海兵隊の大佐や中佐の問題ではないのです。沖縄の海兵隊のトップである**第3海兵遠征軍司令官の中将**と話せば済む問題ですし、このレベルでもウチがあかないなら、**国防総省**を引っ張り出せばよいのです。しかし、**日本政府**はそんなことを考えることもなく、**大佐や中佐の主張にブロック**されてしまったのです。

蟹は自分の甲羅に似せて穴を掘る、という格言があります。蟹が自分の身体に合った大きさの穴を掘って住処とすることから、人間も自分の**身分や力量に応じた言動**をする、という例えです。

そう考えるとハンセンとシュワブでも大佐は大佐の、中佐は中佐の甲羅に合わせて、基地という縄張りの議論をしている事がわかります。**日本政府の側も、大佐や中佐に釣り合うレベルの担当者が前に出て、ハンセンはハンセン、シュワブはシュワブの事だけと向き合い、もっと大きな穴を掘る事、つまり日米同盟における普天間問題を解決する事など、考えもしなかったのです。**

日本政府としては、この現実気がついて、自分の基地を侵されまいとする大佐や中佐の主張を退け、二つの海兵隊基地**全体を使うようグランドデザイン**を描くことが求められます。そこまで行って**初めて、戦略的な思考**と言えるのだと思います。

そのように戦略的に考えるかどうかは、優れて**政治の判断**となるのですが、日本の政治の現状ではそれができていません。よく「**司(つかさ)司(つかさ)に任せる**」という言い方を聞きます。これは、上から余計な口出しをしないで、**担当の組織、担当者に任せておけば、ことはスムーズに進む**という意味ですが、はたして**そうでしょうか**。「**司(つかさ)司(つかさ)に任せよう**」という言葉をやよいことに、**官僚丸投げ**にしてきた日本の現実ではないでしょうか。

そのあげく、ハンセンとシュワブのようなことになってしまう。同じようなケースは、**日本の随所に見られる**と思うのですが、さて、皆さんの周りでは？ （小川和久）

今月21日は参議院選挙で普天間基地移転も争点の一つになることと思いますが、その前に憲法に自衛隊明記がなされれば、解決できる問題もたくさんあるような気がします。支部会員の皆様も憲法改正及び国益重視の候補者に、一票を投じて頂くよう重ねてお願い申し上げます。

尚時節柄、呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

令和元年7月1日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦